

## 第4回高知県消防広域化推進検討委員会（審議概要）

日 時：平成19年7月27日（金）13:30～16:00

場 所：高知県庁2階 第二応接室

### 1. 開会

### 2. 議事

#### ①議事録を実名で公開する件について

- ・安芸市の市長より、議事録を実名で公開して欲しい旨の依頼があった。どのような立場の人が、どのような意見を述べているかを知りたいとのこと。第1回の会で、議事録は公開とするが、その場合の委員の表記はA委員、B委員という形にするとしてあったので、委員の皆様にご判断いただきたい。

↓

- ・委員一同特に異論なし。
- ・坂本委員より、言葉遣いなどに配慮いただきたい旨の意見があった。（普段の話し言葉を使ってしまうこともあるので、その辺りは適宜ふさわしい表現になおしてもらった方がありがたい）
- ・事務局の方で作成し、一度各委員に送ったうえで校正することとする。

#### ②これまでのまとめ・・・岡林消防政策課長より説明

【高知県の消防本部の現状】

【消防に関する将来予測】

- ・本県の消防本部は小規模消防本部がほとんど。→消防の体制は十分とは言えない。
- ・消防の需要は増加傾向。一方で財政面では縮小傾向。
- ・今後はさらに人口減少が続く。→高齢化も進んでいく。
- ・市町村の財政は今後も縮小していくことが予測される。
- ・消防需要は、高齢化の関係もあり、人口が減少してもそれほど減少しない。（2030年においても2005年と同程度）

↓

小規模な消防本部は今後ますます厳しい状況となることが予想される。

【必要とされる現場要員から見た2030年の本部配置可能職員数・・・第3回の宿題】

- ・岡林消防政策課長より説明

同規模消防本部の職員数から見た結果については、4本部を除いて運営は可能となりそうだが、基準財政需要額の予測に基づく職員数から見た結果は11本部が本部運営どころか現場要員の確保もできなくなるという厳しい結果に。

《各委員の質疑・協議》

（座長）

モデルⅠの予測数は、各消防本部の予想管轄人口に2005年時点で類似する同規模の消防本部の平均職員数なのか。→そのとおり。

（岡崎委員）

ということは、モデルⅠは甘い予測ではないか。モデルⅡの方が真実に近いのではと思う。

（岡崎委員）

愛媛県とかの状況は聞いていないか。

→当初6つのブロックを考えていたようだが、それではメリットがないということで、3ブロックで広域化の議論を進めているようだ。

### ③小規模消防本部の問題点・・・岡林消防政策課長より説明

- ・出動の限界、車両の限界など制約が多い。
- ・専門職員の確保、人事異動などに困難が伴う。
- ・財政的に厳しい状況にある。（上2つも突き詰めれば財政面の問題となる）

#### 《各委員の質疑・協議》

(夕部委員)

幡多では広域化しても人員や車両が増えるわけではない。また専門職員の確保についても何とかやりくりしている。

結局、広域化しても人が増えなければ今と同じ状況であるし、車両などもお金が増えなければ全く変化はない。

(座長)

広域化のメリットやデメリットについては、この後の議論になる。今は小規模消防本部の問題点について議論いただきたい。

(中村委員)

単純に車両の数だけで評価するのどうか。装備のレベルなどの評価も加える必要はないのか。人員については本部の整理でどれだけの人員を回せるのか、また、今の専門のレベルでよいかも議論する必要があるのでは。

(浜田委員)

首長の立場としては、必要最小限の（消防体制の）確保はしなければならないと思っているが、議論の前提として、「確保しなければならない」のか「そうではない」として考えるのかを決める必要があると思う。広域化は、（金銭的に）（現状維持に）対応しやすい方法として出てきている。個人的には、必要最小限で、少しでも効率化できる体制を目指したいと思っている。

(笹岡委員)

高幡は広域化しているが、各市町村が独立しており、この議論の広域化と違う。

(浜田委員)

現在の一部事務組合の財政負担のあり方はまちまちである。どのように調整するかが大きなテーマになるのでは。

(安岡委員)

中芸は消防庁舎の建て替えの問題があり、本部統合（広域化）と一緒に考えたいと思っているが、今の流れでは、本部統合だけで良いのかなと思う。

### ④広域化のメリット・・・岡林消防政策課長より説明

- ・消防長から示されたメリットを元に、高知県ではどうなのかを中心に考えてみた。
- ・出動部隊数の増加→高知県では、高知市近郊のみに限定される。
- ・署所配置、管轄区域の見直し→署所の配置の見直しは難しいのでは（長年の積み重ね

- で今の署所配置となっている)。管轄区域の見直しは、一定の効果はありそう。
- ・本部要員の効率化→程度は別にしても、効果はある。どういった規模で広域化するかによる。ただし、すべての非番招集が解消されるほどには期待できない。
  - ・経費の節減→一定の重複投資は避けられるのではないか。
  - ・財政基盤強化→スケールメリットを生かして計画的に使用できるのではないか。
  - ・人事異動→一定の効果が期待できるのではないか。
  - ・研修への派遣→(広域化の)規模が大きくなればなるだけ人員のやりくりがしやすくなるのではと考える。
- ・以上のように、広域化だけですべての問題が片づくものではないが、ある程度の効果は期待できると思われる。→(広域化の)規模が大きいかほど効果は大きくなる。

#### 《各委員の質疑・協議》

(浜口委員)

初動体制の増加という点については、嶺北地区では図れるとは思えない。また、管轄区域の見直しも嶺北ではあり得ない。

(夕部委員)

初動体制の増加については、幡多地区では署所間の距離が大きく、応援した方が困る事態が発生する恐れがある。(応援時に自署の管内で災害が発生する恐れ)

本部要員の効率化も望めないのではないか。また、経費節減面でも、車両をひとまとめにしてというのは高知市以外ではあり得ない。

(笹岡委員)

メリットとして考えられるのは管轄区域の見直しではないだろうか。

(夕部委員)

管轄の見直しは逆にデメリットになりうる。(管轄が広がったとき、その広がった地区へ出動した場合、旧管轄への出動態勢がとれなくなる)

また、市町村消防の原則というのは「地域密着」に基づくもの。人事異動の話もあったが、移動により地理不案内な職員ばかりということでは困る。

(中村委員)

確かに現状で得られるメリットは限定的。メリットは高知県ではこの程度かもしれないが、20～30年後、人口減・市町村財政の縮小が予想されているなか、消防をどうするかを考えると、広域化は取り組むべき一つの課題ではと感じるが。

(浜田委員)

本部要員の効率化(現場職員の増強)に繋がらないなら、広域化も何もない。

(笹岡委員)

人口減・財政の窮乏だけで広域化の議論をすることは私は反対。

(坂本委員)

この議論の非常に悩ましいところが、広域化は、小規模消防本部の抱える問題を解決する手段としては「有効」なところにある。やはり、広域化を議論する前に、厳しい現状と将来を把握したうえで、今後どういう方向で議論するのか皆で見直すことが必要。広域化は一つの手段でしかなく、(厳しい将来を乗り切るといふ)目的のために、どうするかを他の方法も考えてみるプロセスがあった方が議論を進めや

すいと思う。

(中村委員)

もちろん、人口減・財政減だけで議論をするつもりはない。ただ、スタートとして、20年、30年後の状況を把握したうえで、消防のサービスをどのように維持・継続していくかを考える必要があるとの思いを述べた。消防サービスはおそらく欠かせないものであるので、出発としては、将来のそうした（厳しい）状況を認識したうえで議論をする必要があると思う。

(安岡委員)

財政を預かる身として、本部統合というのは非常に魅力的。長が1人ですむのもいいところである。ただ、それだけで議論が進むのは良くないという意見も事実。消防の中身の議論も大事。

(浜口委員)

高知市の山中局長より意見を預かってきているので紹介する。

・（高知市にとって）メリットはない。

デメリットとしては、

- ・（予防業務の）許認可などが一本化されると、住民サービスの低下となる点。
- ・管轄区域の見直しにより、消防力が分散化され、結果として低下を招く。
- ・人事交流で地理不案内な職員が増えること。
- ・団、市町村の災害対策本部との関係がうまくいなくなる。
- ・現実問題として、今も組合でいろんな制度が一本化されていないところがある。やはり人事面の統一は無理。
- ・応援と言われるが、それは今の応援協定でも可能なこと。

(加田委員)

広域化するにしてもしなくても、団をどうするのかの議論もしてもらいたい。

(座長)

その話は今までにも出ており、今後議論する予定ですので。

いずれにしても、消防庁のメリットは高知県にはストレートに当てはまらないだろう。各消防長とのヒアリングなど、現状や将来予測を下から積み上げて、問題を解決する手段が他にあるのかを議論していきたいと思う。

#### ⑤広域化における課題の整理・・・岡林消防政策課長より説明

・先ほど高知市からの意見にもあったが、資料の11ページに課題を整理した。

課題としては、

- ・消防体制の変化への住民の不安
- ・今まで通りの対応が可能なのか、特に予防面
- ・市町村、団との関係の維持
- ・人事及び組織管理
- ・各地域で違う消防力をどう調整するのか
- ・財政負担の問題

などが考えられる。ただ、これらは正に課題であって、解決する手法はあると思う。

広域化を進めるうえで決定的なデメリットとはならないと考える。今後、「広域消防運営計画」策定時に詳細は検討することとなる。

《各委員の質疑・協議》

(座長)

広域化にあたっては、いかに（機能を）集約するかという点と、「サービスそのものは広域化（集約）できない」という点を、いかにバランスをとるかが重要である。今回は時間もないが、次回の会で引き続き議論をしていきたいと思う。